

## 6 レタス農家の品質重視と労力軽減の意向が明らかに (AHPを用いた意識度調査より)

### ねらいと成果

農家の意向を把握して施策に活かすことが求められており、農業においてもマーケティング・リサーチ手法を適用する必要がある。AHPはその手法の一つであり、曖昧で感覚的な意思決定の過程を重要度として数量化できる。

そこで、AHPを用いてレタス栽培農家の意識度を調査した結果、栽培技術や経営に対する重要度が明らかとなった。

### 内容

#### 1 調査対象の概要

レタスを基幹作物とする南淡町2戸、西淡町2戸の露地野菜専業農家を調査した。各農家は43~58歳、ビッグベイン病多発地域でレタスを1.3~2.3ha作付けているが生産意欲は高い。

#### 2 調査方法

AHPはAnalytic Hierarchy Processで対比較法とも呼ばれる。評価項目(図1)とその階層構造(図2)を示し、二つずつ対にして「どちらの項目がどれだけ重要か」を回答してもらった。重要

「出荷量を増やす場合」について、どちらが重要ですか?

評価項目	絶対的な重要性									評価項目
	9点	7点	5点	3点	1点	1/3点	1/5点	1/7点	1/9点	
育苗						○				肥培管理・土づくり
育苗									○	ビッグベイン病対策
育苗									○	病害虫防除適期作業

図1 AHP用のアンケート調査票(例)

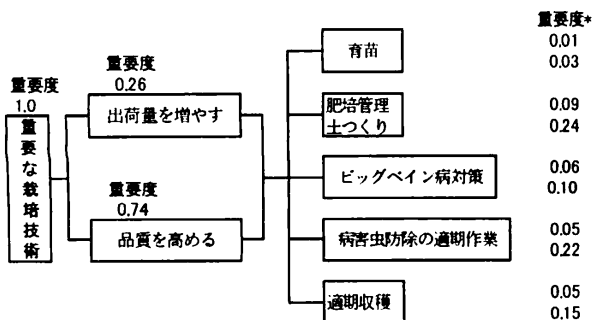


図2 レタスにおける重要な栽培技術の階層図

\*上段は「出荷量を増やす」下段は「品質を高める」からの重要度

な栽培技術、経営における重要項目について分析を行い、経営主の重要度の平均値を算出した。

### 3 調査結果

栽培技術を「出荷量を増やす」と「品質を高める」に大別した場合、「品質を高める」に0.74の重要度があり、量より質に対応した栽培技術を重視している。さらに、「品質を高める」ためには肥培管理・土づくり、次いで病害虫防除の適期作業に努力していると分析できる。一方、ビッグベイン病に対する重要度の順位は若干低い、品質を阻害する要因と認識されている(図2)。

経営面で重視しているのは、特に労働時間減で、経費節減は低かった。

これらの結果より、土壌肥料面における技術支援や病害虫発生予察の情報提供、さらには省力化技術の開発を期待している意向が明らかになった。

#### 今後の方針

AHPなど各種マーケティング・リサーチ手法を生産から消費部門までに活用する。特に消費者の動向を分析して産地および生産者のマーケティングに貢献する。

加藤 雅宣(農業技セ・経営・機械部)

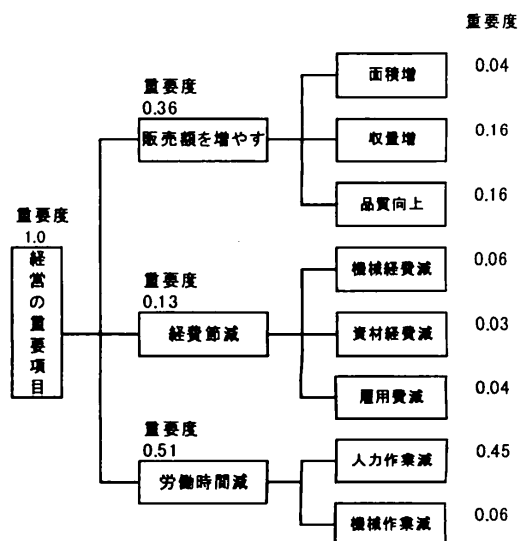


図3 レタスにおける経営の重要項目の階層図